平成１９年度決算報告書

TOKYO FM
Just Me, Just 80MHZ

株式会社エフエム東京

平成２０年５月２７日

報道各位

株式会社エフエム東京

平成１９年度業績の概況

当会計年度におけるわが国経済は、新興国向けを中心とした輸出の伸び等に支えられ年度前半は緩やかな景気回復を続けましたが、米国のサブプライムローン問題顕在化や円高、原油や原材料価格の高騰等により年度末にかけ企業収益が減少に転じ、景気回復は足踏み状態となりました。一方、個人消費は、所得が伸び悩む中、ガソリン、食料品等の値上げにより消費者心理が悪化したものの、緩やかな増加傾向が続きました。

こうした経済情勢を反映し、平成19年の日本の広告費（電通調べ）は、総広告費が７兆191億円（前年比1.1％増）と４年連続の増加となりましたが、伸び率は前年より低下しました。このうち、ラジオ・テレビ・新聞・雑誌のいわゆるマスコミ四媒体広告費については前年比2.6％減と２年連続の減少となり、既存メディア事業者にとっては厳しい事業環境が続きました。一方、検索連動広告を中心に拡大を続けたインターネット広告費は前年比24.4％の増加となりました。

このような状況の中、当社は、FM 放送とインターネット・携帯電話等のモバイルメディアを連携させたクロスメディア戦略による収益力の向上を図りましたが、前期下期より企画事業においてイベントの主催契約関係の見直しを行い、興行売上の大半につきその計上を行わなかったことが主な要因となり、売上高は 171 億８千２百万円（前期比 24.7％減）となりました。また、営業利益は９億１千２百万円（前期比 3.7％減）、経常利益は９億５千９百万円（前期比13.8％減）となりましたが、当期純利益は６億９千６百万円（前期は子会社株式の減損等により72億７千８百万円の純損失）で、減収増益となりました。

一方、当社グループ全体の連結売上高は、259 億８千９百万円（前期比 20.1％減）となりました。利益面では、当社グループの再編を視野に、連結子会社において事業構造の整理および財務基盤の整備に係る営業費用ならびに特別損失を計上したことが主な要因となり、営業利益が２億２千５百万円（前期比 63.2％減）、経常利益が２億２千万円（前期比55.5％減）、連結当期純損益は１億８千２百万円の損失（前期は57億１千３百万円の損失）となりました。

＜放送事業活動＞

FM放送事業においては、FM放送の原点に還った人々のこころに感動と共感を呼び起こす高品質な番組開発に力を入れました。「SCHOOL OF LOCK!」では、親子問題に関するリスナーのこころの悩みに対し全国のリスナーがメッセージを寄せた放送（平成18年８月16日）が、社団法人日本民間放送連盟の「日本放送文化大賞」グランプリを受賞しました。また、30代ビジネスマンの日常を描く「あ、安部礼司」が幅広い世代の男性リスナーから強い支持を得たほか、芥川賞作家小川洋子氏の「Melodious Library」等、高いクリエイティビティとFM放送らしさを兼ね備えた番組を多数、誕生させました。

一方、イベントに連動した番組展開としては、FM ケータイによる新しい FM 聴取スタイルの提案・普及促進キャンペーンとして、全国民放 FM53 局共同による「桑田佳祐アコースティックライブ in 石垣島」（平成 20 年３月 23 日）を実施、その模様を１時間にわたって生中継したほか、前述の「SCHOOL OF LOCK!」による「学園祭ライブ」「卒業式ライブ」等を実施し大きな反響を得ました。
また、放送 40 周年を迎えた「JET STREAM」では、渡辺貞夫や松任谷由実等、1960 年代から 90 年代を代表するアーティストとともに「40 年間の旅の変遷」を特別番組で振り返りました。さらに、JFN38 局で毎年展開している FM フェスティバルでは、CD 売上や楽曲ダウンロード数等の一般的な指標ではなく、“こころの感動”に焦点をあてた音楽賞「LIFE MUSIC 2007」を開催、年間を通じて音楽業界に話題を提供しました。

さらに、ラジオ CM の分野では、当社の高いクリエイティブ力が内外で高い評価を得、国内で最も歴史と権威のある広告コンクールの一つである社団法人日本アドバタイザース協会(JAA)主催「消費者のためになった広告コンクール」ラジオ広告部門で最優秀賞（JAA 会長賞）他を受賞、さらに海外でも国際的な広告コンクールとして知られるロンドン国際広告・デザイン賞（London International Advertising & Design Awards）においてラジオ広告部門の入賞を果たすなど、年間の受賞数は 24 を数えました。

こうした放送展開とともに番組連動のクロスメディア展開に力を入れ、前述の「あ、安部礼司」では番組公式 Web サイトはもちろん、番組の脚本集の出版が反響を呼び、さらに携帯サイト、携帯向け着ボイス、ポッドキャスト等の新サービスを開発しました。また、『パラサイト・イヴ』、『BRAIN VALLEY』で知られる作家・瀬名秀明氏が当社のために書き下ろした長編小説『Every Breath エヴリブレス』をラジオドラマ化、FM 放送、インターネットラジオ、デジタルラジオ放送でオンエアーしたほか、携帯特設サイト、出版等のクロスメディア展開を積極的に実施しました。これらのクロスメディア展開は、着実にリスナーの当社メディアへの接触時間を拡大しています。
なお、地上デジタルラジオ放送については、平成 20 年度以降は、３セグメント放送によるビジネスモデル開発のための実証実験活動を福岡地区ユビキタス特区において展開し、地上テレビジョン放送のデジタル完全移行後の VHF 帯域を利用したマルチメディア放送での免許取得、平成 23 年７月からの放送開始を目指します。

＜企画・制作事業活動＞
企画・制作事業においては、国内外のビッグアーティストによる話題の公演を多数実施しました。海外アーティストでは、ポリスの日本公演を実現、このほかにも、「アバ・ゴールド」等の話題の公演や、セリーヌ・ディオン、レッドホットチリペッパーズ等の大物アーティストの公演を主催しました。また、国内アーティストでは、東京ミッドタウンのオープン１周年記念イベント「ユーミン プレミアム ライブ」等のオリジナルイベントを企画プロデュース、このほかにも「浜崎あゆみ」、「ミスターチルドレン」、「ドリームズカムトゥルー」等のコンサートを手がけました。
クラシックイベントとしては、指揮者 井上道義氏がトークとゲストを交えながら音楽の楽

しさを伝えるプログラム「道義の家族第一主義！」等新しい形式のイベントに挑戦したほか、一般参加者がウィーンに集い楽友協会大ホールでベートーヴェン交響曲第９番等を熱唱するチャリティーイベント「国境なき合唱団」を主催しました。
また、「BLUE MAN GROUP IN TOKYO」、「ブラスト！ブロードウェイバージョン」、「舞劇・楊貴妃」等、大型ステージエンタテインメント公演を実施しました。
スポーツ分野では、マンチェスター・ユナイテッドと浦和レッズの対戦「さいたまシティカップ 2007」を実施し、６万人近い観客を動員しました。今年で 18 回目となる「アースデー・コンサート」は、m-flo、RAG FAIR、加藤ミリヤ、mink、大塚愛の５組のアーティストを迎え、「Message to Blue Planet～未来の青い地球～のために今できること」を世界に向けて発信しました。６年目を迎えた夏の首都圏広域イベント「GTF（グレーター・トーキョー・フェスティバル）2007」では、市民参加型企画として浮世絵デジタル作品展他多彩なコンテンツで誘客を図り、期間中 630 万人を動員しました。

＜インフォメーションプロバイダー事業活動＞
当社連結子会社であるジグノシステムジャパン株式会社は、主力の携帯電話向けモバイルコンテンツ事業において、新機種向けの着せ替えコンテンツ（端末の画面の各種表示のデザインを更新するサービス）を販売する新サイトの構築等“リッチコンテンツ”の開発に取り組みました。また、自社の技術力を活かした他社携帯サイトの構築・運営受注ビジネスに加え、平成 19 年 10 月からは、当社連結子会社ティーエフエム・インタラクティブ株式会社との業務提携によりインターネット企画営業機能を集約しました。また、関連した映像・音楽制作事業については、グループ内の資本移動により当社連結子会社の株式会社エフエムサウンズをジグノシステムジャパン株式会社傘下の子会社とし、株式会社サーティース、株式会社オニオン等同じく傘下にある子会社との相乗効果によるクリエイティブ力の強化、業容の拡大に努めました。

＜その他の事業活動＞
出版事業では、年間の出版点数を戦略的にしぼり、FM 放送の人気番組と連動した企画の実現に注力いたしました。その結果、前述の「Every Breath エヴリブレス」、「SCHOOL OF LOCK！」のオフィシャルブック第二弾「SCHOOL OF LOCK！DAYS ２」、「あ、安部礼司脚本集」、「アヴァンティ・カクテルブック２」、「３日で結婚できる女になる方法」等、当社ならではの出版企画が大きな反響を呼び、さらに音楽関連では、「米米倉庫 Vol.3」、「オール・アバウト・ディスコミュージック」、「地球音楽ライブラリー松田聖子（改訂版）」等、話題の書籍を発刊しました。

以上

損　益　計　算　書（当社単体）

平成19年４月１日～
平成20年３月31日

単位：　千円

勘　定　科　目	第43期 平成19年度	第42期 平成18年度	前期比 (%)
売上高	17,182,164	22,812,343	75.3%
売上原価	11,569,112	16,477,639	70.2%
売上総利益	5,613,051	6,334,703	88.6%
販売費及び一般管理費	4,700,327	5,387,259	87.2%
営業利益	912,724	947,444	96.3%
営業外収益	260,933	329,108	79.3%
営業外費用	214,066	163,635	130.8%
経常利益	959,592	1,112,917	86.2%
特別利益	236,600	5,903	—
特別損失	182,991	8,261,490	2.2%
税引前当期純損益	1,013,200	△ 7,142,669	—
法人税、住民税及び事業税	305,474	293,180	104.2%
法人税等調整額	11,067	△ 157,301	—
当期純損益	696,658	△ 7,278,549	—

前期比較売上高内訳書(当社単体)

平成19年 4月　1日～
平成20年 3月31日

単位:　千円

	第43期 平成19年度	第42期 平成18年度	前期比
売上高	17,182,164	22,812,343	75.3%
放送事業収入	14,821,380	16,195,408	91.5%
放送収入	12,447,607	13,753,974	90.5%
タイム放送収入	7,374,459	8,306,255	88.8%
スポット放送収入	2,802,739	3,004,195	93.3%
クロスメディア収入	2,270,408	2,443,523	92.9%
制作収入	2,149,791	2,182,876	98.5%
その他収入	223,981	258,557	86.6%
企画事業収入	1,462,869	5,708,569	25.6%
賃貸事業収入	582,233	513,394	113.4%
その他事業収入	315,681	394,971	79.9%

43 期（通期）広告会社取り扱い順位

＜総合順位＞

43 期	42 期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂ＤＹメディアパートナーズ
3	4	ビデオプロモーション
4	3	アサツーディ・ケイ
5	12	コスモコミュニケーションズ
6	7	毎日廣告社
7	8	ガイアコミュニケーションズ
8	6	放送文化事業
9	11	京橋エイジェンシー
10	102	三晃社

＜タイム＞

43 期	42 期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	ビデオプロモーション
4	8	コスモコミュニケーションズ
5	6	放送文化事業
6	4	オリコム
7	13	オフィスフラッグス
8	7	マッキャンエリクソン
9	10	中宣メディア
10	5	アサツーディ・ケイ

＜スポット＞

43 期	42 期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	4	アサツーディ・ケイ
4	3	毎日廣告社
5	65	三晃社
6	5	京橋エイジェンシー
7	6	ガイアコミュニケーションズ
8	10	ｱｲｱﾝﾄﾞｴｽ･ﾋﾞｰﾋﾞｰﾃﾞｨｵｰ
9	8	マッキャンエリクソン
10	12	電通東日本

平成20年3月期　決算短信

平成20年5月27日

会社名　　株式会社　エフエム東京
ＵＲＬ http://www.tfm.co.jp
代　　表　　者　（役職名）　代表取締役社長　（氏名）　冨木田　道臣
問合せ先責任者　（役職名）　経理部長　（氏名）　神谷　有子　ＴＥＬ(03)3221-0080
定時株主総会開催予定日　平成20年６月24日　配当支払開始予定日　平成20年６月25日

（百万円未満切捨て）

１．平成20年３月期の連結業績（平成19年４月１日～平成20年３月31日）

（１）連結経営成績　（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年３月期	25,989	△ 20.1	225	△ 63.2	220	△ 55.5	△ 182	－
19年３月期	32,534	△ 11.4	611	△ 37.0	496	△ 40.7	△ 5,713	－

	１株当たり当期純利益又は損失（△）		潜在株式調整後1株当たり当期純利益		株主資本当期純利益率	総資本経常利益率	売上高営業利益率
	円	銭	円	銭	%	%	%
20年３月期	△ 203	72	－	－	△ 0.8	0.5	0.9
19年３月期	△ 6,394	90	－	－	△ 21.6	1.0	1.9

（参考）持分法投資損益　20年３月期　81 百万円　19年３月期　△ 50 百万円

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円	銭
20年３月期	45,136	26,975	51.0	25,547	86
19年３月期	47,787	28,526	49.4	26,322	20

（参考）自己資本　20年３月期　23,594　百万円　19年３月期　22,889 百万円

2．配当の状況

				配当金総額（年　間）	配当性向（連結）	株主資本配当率(連結)
（基準日）	中間期末	期末	年間			
	円　銭	円　銭	円　銭	百万円	%	%
19年３月期	30　00	30　00	60　00	54	－	0.2
20年３月期	30　00	30　00	60　00	54	－	0.2
21年３月期	30　00	30　00	60　00	－	－	－

3．平成21年３月期の連結業績予想（平成20年４月１日～平成21年３月31日）

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円	銭
通　　期	26,184	0.7	1,117	－	1,041	－	486	543	55

4．その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）　無

(2) 連結財務諸表作成係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更に記載されるもの）

① 会計基準等の改正に伴う変更　有

② ①以外の変更　無

（参考）個別業績の概要

１．平成20年３月期の連結業績（平成19年４月１日～平成20年３月31日）

（１）個別経営成績　（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年３月期	17,182	△ 24.7	912	△ 3.7	959	△ 13.8	696	－
19年３月期	22,812	△ 18.1	947	△ 25.0	1,112	△ 13.6	△ 7,278	－

	１株当たり当期純利益又は損失（△）		潜在株式調整後1株当たり当期純利益	
	円	銭	円	銭
20年３月期	774	7	－	－
19年３月期	△ 8,087	28	－	－

（２）個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円	銭
20年３月期	38,359	23,007	60.0	25,564	17
19年３月期	38,783	22,813	58.8	25,348	13

2．平成21年３月期の個別業績予想（平成20年４月１日～平成21年３月31日）

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円	銭
通期	16,246	0.7	828	－	768	－	422	469	54

連　結　損　益　計　算　書

平成19年４月１日～
平成20年３月31日

単位：　千円

勘　定　科　目	第43期 平成19年度	第42期 平成18年度	前期比 (%)
売　上　高	25,989,890	32,534,207	79.9%
売　上　原　価	18,333,055	23,111,165	79.3%
売　上　総　利　益	7,656,834	9,423,041	81.3%
販売費及び一般管理費	7,431,423	8,811,324	84.3%
（内　のれん償却額）	152,827	852,203	17.9%
営　業　利　益	225,411	611,717	36.8%
営　業　外　収　益	250,478	125,650	199.3%
営　業　外　費　用	255,169	240,832	106.0%
経　常　利　益	220,720	496,535	44.5%
特　別　利　益	251,988	133,088	189.3%
特　別　損　失	890,996	6,190,680	14.4%
税金等調整前当期純損失	418,288	5,561,057	7.5%
法人税、住民税及び事業税	528,346	478,364	110.4%
法人税等調整額	△ 19,179	△ 353,489	5.4%
少数株主利益	△ 744,898	27,739	—
当期純損失	182,557	5,713,671	3.2%